

令和元年度エキノコックス症対策協議会  
媒介動物対策専門部会議事録

【日 時】令和2年2月21日（金）10：00～12：00

【場 所】北海道庁本庁舎5階共用会議室

【出席者】委員4名（福本部会長、押田委員、野中委員、孝口委員）

道庁関係者（畜産振興課 萩谷主査、生物多様性保全課 三井主査、衛生研究所  
浦口特任研究職員、八木特任研究職員）

事務局（食品衛生課 斉藤課長、柴崎主幹、豊岡主査、野崎専門員）

【議事内容】

- 1 開会・課長挨拶
- 2 委員紹介
- 3 配布資料説明
- 4 議事

（1）平成30年度媒介動物疫学調査結果について

ア 事務局から資料に基づき説明

イ 質疑応答

押田委員： 検査施設を根室に集約したとのことだが、搬送については重々注意しているか。

事務局： 保健所で検体を厚手のビニールと段ボールにより漏れないように包装し、冷凍して一般の搬送業者に依頼している。

孝口委員： 近年ブタの感染率が下がっているが、何か理由があるか。

萩谷主査： 感染率が下がっている27年～30年に特別の対策は行っていない。継続的に農家にキツネ対策の指導をしているので、一部影響はあるかもしれない。

浦口研究職員： 農家ごとの感染率の偏りが大きいので、感染率が高い農家の動向に結果が引っ張られるということはあるかもしれない。

野中委員： 感染率が高い農家が偏っているのであれば、感染している農家を重点的に指導することは可能か。

浦口研究職員： 可能ではあるが、農家にブタのエキノコックス感染を減らすモチベーションが低いのと、感染がみられる農家は多数あるため、難しい点はあるかと。

（2）その他（調査研究成果報告）

ア 押田委員から「アライグマのベイト摂取率について」について報告

イ 浦口特任研究職員から「ベイトの消失率について」について報告

ウ 八木特任研究職員から「北海道東部における犬のエキノコックス感染の実態と飼い主等の理解度について」について報告

- 5 閉会